



混合かじ付きフォアの日
本チームは、手足や視覚に
障害がある男女4人がこぎ
手の「クルー」として乗り
込み、立田さんはかじを取
りながら、4人の息が合う

東京パラリンピックのボート競技
「混合かじ付きフォア（運動機能障
害・視覚障害PR3）」に出場する
日本代表チームで、札幌出身で石狩
翔陽高（石狩市）を卒業した立田寛
之選手（29）＝埼玉・戸田中央総合病
院ローイングクラブが、かじ取り
役の「コックス（舵手）」を務める。
立田選手は健常者で、パラリンピッ
ク初出場。同高の恩師らが活躍に期
待している。
（加藤祐輔）

立田寛之選手



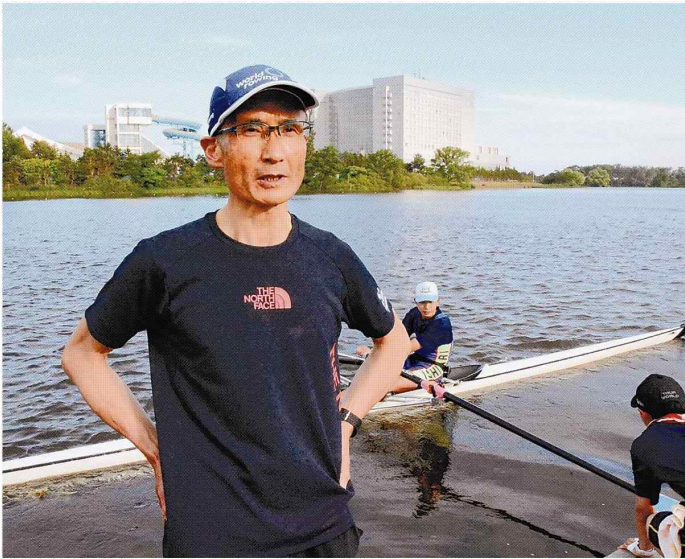
パラ競技 健常者かじ取り

札幌出身ボート代表 立田選手

ようにかけ声をかける。コ
ックスは健常者も出場でき
開かれた東京パラリンピッ

恩師、家族に感謝

「北海道の力に」



石狩翔陽高ボート部の練習拠点・茨戸川漕艇研修センター
（石狩市）で立田選手の高校時代を振り返る稲垣教諭

ク最終予選で、日本は上位
2チームに入れず一度は
出場を逃したが、同月下旬
の国際パラリンピック委員
会（IPC）などの協議で、
推薦枠で選出された。
立田選手は石狩翔陽高時

立田選手は石狩翔陽高時

諭58）＝札幌あすかぜ高
などによると、立田選手は
中学時代にサッカーをして
いたが、同高入学時にボー
ト部の勧誘を受けて入部。
体重や性格などからコック
スを務めるようになったと

代にボート競技を始め、当
時からコックスを務めた。
進学した日大や現在所属す
る社会人チームで、全日本
選手権や国体を制覇。日本
代表メンバーにも選ばれて
東京五輪を目指したが、代
表チームはコックスが乗る
種目に出場しない方針を決
めたため、2018年から
パラリンピックのボート競
技に挑戦してきた。

立田選手は、出場決定を
受け「ボートの楽しさを教
えてくれた先生方や支えて
くれた家族、仲間感謝し
て、レースを通じ地元・北
海道の力になりたい」とコ
メントした。

高校1、2年時代にボー
ト部の監督だった小川薫教

いう。小川教諭は「高校時代
からよく気がつき、しっか
り物が言えるコックス向き
の性格だった」と振り返る。
3年時の監督で、現在も
同部の監督を務める稲垣喜
彦教諭（60）は「さまざま
特性のクルーをまとめる立
場は意義深い。本番までの
約1カ月余り、チームとし
てまだ成長できる部分は多
くある」と期待。同高2年
でボート部員の金沢銀河さ
ん（17）は「世界の舞台に立
つ先輩の姿が励みになる。
ぜひ頑張ってください」とエ
ールを送る。
東京パラリンピックのボ
ート競技は8月27日から、
海の森水上競技場（東京・
江東区）で行われる。